

〔発言者〕 瀬戸口千枝

〔発言年月日〕 1970年

〔生年、被爆地、職業など〕 長崎で被爆。元女学校教諭。

〔内容〕

「——あなたとの約束の日には、それこそ千秋の思いで待っていました。あなたは原爆の生きた証人です。その恐ろしさや苦しさを世の中の人々に訴えるのは、あなた方原爆の体験者をおいて外に誰がいるでしょう。思い直して、あなたの苦難の二十五年記を発表してみませんか。私があなたの手となって書きますからね。何か都合の悪いことがあればとく名でもよいのですよ。——」

〔注〕

『長崎の証言』に収録された被爆体験を話すことをためらう元教え子に呼びかける教師の手紙の一文。長崎の証言運動の初期に、証言の収集に奔走した市民の取り組みの様子と、熱意が伝わってくる。

（『長崎の証言 1970』、「長崎の証言」刊行委員会編、1970年所収）